

くすもと たんざん きゆうたく くすもと け ぼ ち ど ふんぐん な な き
楠本端山旧宅と楠本家墓地土墳群 七基



くすもと たんざん せきすい え ど じ だい はん し
楠本端山と碩水兄弟は、江戸時代末に平戸藩士の家に生まれた有名な儒学者です。

端山と碩水の旧宅は、父の忠次右衛門(養斎)が天保3年(1832)に建てたもので、門を入ると3箇所(かしょ げんかん)に玄関があり、右から来客用、家族用、使用人用に分かれ、部屋は2間続きの座敷(へ や けん)が2組(ざしき)もあります。さらに、儒教の祠堂(じゆきやう し)を備えるなど、江戸時代後期の平戸藩士の家に儒教の祠堂(あわ)を併せ持った貴重な建物です。

【見学のお知らせ】

西肥バス「葉山」下車 旧宅：徒歩10分
墓地：下車すぐ
旧宅住所：佐世保市針尾中町1698-2
旧宅開館：午前9時から午後4時まで
(お盆・年末年始 休館)

◆問合せ・見学申込先

楠本端山史跡保存会
TEL(0956)58-2144



ほうめいしよいん ふくげん
鳳鳴書院(復元)

くすもと たんざん
楠本端山



くすもと せきすい
楠本碩水



たんざん はん
兄の端山は、少年のころは藩校の維新館で学び、後年には江戸へ留学(りゆうがく)しました。帰藩後は維新館の教授(きょうじゆ)を勤め、その後、明治14年(1881)に針尾の葉山(やま)で私塾「鳳鳴書院」を開きました。明治16年(1883)端山没後(ぼつご)は弟の碩水(せきすい)が引き継ぎ、明

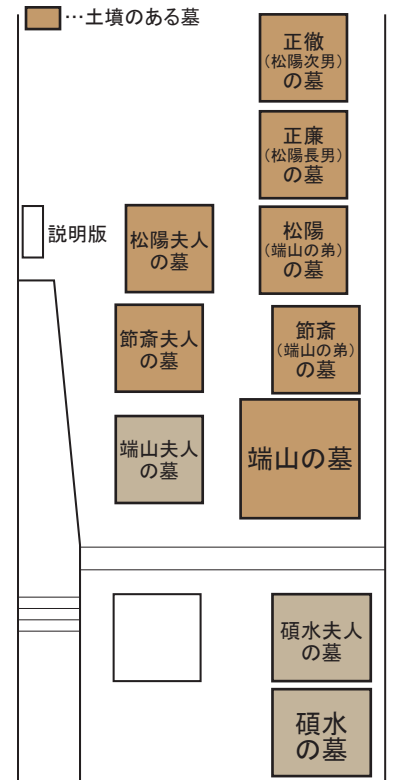
治30年(1897)に閉鎖(へいさ)するまで学問を教えました。

端山(してい)が平戸の維新館から鳳鳴書院までの間に教えた師弟(しでい)は1千数百人になったといわれ、鳳鳴書院の弟碩水門下(たつ)でも400人に達(たつ)します。その出身地(にいがた)は青森、新潟の東北(およ)をはじめ全国19都府県(およ)に及びました。

きゆうたく ししよ うらて
旧宅(きゆうたく)の東、市役所針尾支所(ししよ うらて)の裏手には楠本家(ぼち)の墓地(ぼち)があります。このうち端山(はか)の墓(き)を含む7基(き どふん)が土墳(じゆきやう)を持つ儒教様式(ゆいいつ)の墓(き)であり、県内唯一(ゆいいつ)の現存例(げんぜんれい)です。特に、端山(はか)の墓(き)は土墳(じゆきやう)の前に儒教式墓碑(ぼひ)を置き、周囲(い がき めぐ)には斎垣(い がき めぐ)を巡らせ、前面(まへ)には中国風石門(ちゆうごう せきもん)と石灯笼(とうろう)を置く典型的な儒教墓(じゆきやう し)となっています。



くすもと け ぼ ち
楠本家墓地



くすもと け ぼ ち は い ち ず
楠本家墓地配置図